

2022 年度 事業報告書

2022 年 1 月 1 日～12 月 31 日



ふるさと学習「シマフクロウから教わる 水源林と町の川のつながり」

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

【2022年度 事業報告書】

今年度は、シマフクロウを支えるありがたいの繋がりを今後より戦略的に進めるために、その基礎となる調査研究のこれまでの成果を取りまとめ、仮説を短期で解明していく GPS 周年行動圏調査実現に向けた諸準備を進めました。

これらの取組みは、今後優先して資源の維持や環境改善を着手していくべきエリアが定め、現在取り組みを進めている重要環境の保全再生や次世代への環境教育をより適切で効果的に進めていく下地となるものです。

重要環境の保全や次世代への環境教育、外部団体等との交流や、事業連動寄付を通じた法人様との協働、SNS や会報など各種広報事業等を通じて、町内外の個人・法人・団体・行政と、シマフクロウの保護保全の促進につながる新たな連携や協力が生まれました。

定款の 事業名	実施者	事業名	事業内容	時期	人数
保護・保全事業 <研究部門>					
シマフクロウ の保護・保全 及び支援する 事業	自団体	給餌の利用状況調査 	釧路管内に生息するシマフクロウ 1 つがいが利用する給餌池の利用状況調査を通年実施し、滞在時間、採餌量、体重等のデータを抽出し蓄積した。 また、2017 年1月～2020 年1月の調査結果を解析し浮上した課題を取り纏めた報告書を作成した。	通年	4
	自団体	巣箱内調査	給餌の利用状況調査から得られた課題の一つとして、繁殖時の巣箱内における行動や餌種などを解明する巣箱内調査実施に向けた諸準備を行った。 本調査の成果は、環境省のシマフクロウ保護増殖事業に貢献することから、環境省の巣箱かけ事業の中で実施することとして整理された。	11-12月	3
//	自団体	GPS 調査	給餌の利用状況調査結果を解析した結果、給餌池以外に餌場があり完全に給餌池に依存していないことが推定された。この行動の多くは依然未解明であるが、解明しシマフクロウの行動圏を明らかにすることは本種の自立に向けたステップとして重要であることから、基礎情報を知る周年生態解明を目的とする GPS 行動圏調査が急務だと考えられた。そのため、実施に向けた「給餌の利用状況調査の詳細報告書」や「GPS 行動圏調査実施に向けた実施計画書」を作成	1-3 月 11-12月	3 4

			し、関係者と協議を行った。		
シマフクロウの保護・保全及び支援する事業	自団体	繁殖確認調査 	釧路管内の 3 つがいの繁殖確認調査を適期に実施し、1 つがいの繁殖を確認し 1 羽の幼鳥が巣立ちした。残り 1 つがいは産卵は見られたが、大雪の影響で失敗となり、もう 1 つがいは産卵までも進まない結果であった。	4 月	1
//	自団体	補助給餌   	・給餌池を利用する1つがいは、強風時を除き通年飛来し、池に放流してあるヤマメ等を採餌したことを調査により確認した。滞在時間と捕食量は相関関係はなく、1 日数回の飛来のうち全く食べずに飛去することもあった。 ・シマフクロウの繁殖支援用の活魚の食害防止対策は今年度も引き続き実施し、日中のワシ等の捕食が大幅に減り対策の効果が確認出来た。 ・給餌池への給水を担う井戸は、付け替え用ポンプや老朽化した備品の交換、補修作業などトラブルが相次いだ。2 月初旬から 4 月中旬にかけては約 2 か月半にわたり渇水状態が続き、水量が減少し給水パイプが凍結に至り、埋設されたパイプ凍結箇所まで掘り起こし付け替える作業を 2 月厳冬期に行った。同時期に、井戸と池をつなぐホースにも圧力がかかり井戸内で外れ、井戸の中に自ら入りポンプを付け替える危険な作業を行った。作業にあたり地元住民に支援いただいた。給餌池の管理団体には、新たな井戸の設置要請をしたが具体的対策には進まなかった。	通年	4
保護保全事業 <環境保全部門>					
シマフクロウの保護・保全活動及び支援する事業	自団体	政策提言	環境省主導の「生息情報公開規制」がネックとなり、道民がシマフクロウ生息地と知らずに開発行為が行われている現状を打開するために、国が定めた規則とは別に「北海道主導のルール」を策定する必要を知事に提言する提言書を作成したが、問題提起後コロナ渦となりその後社会情勢の変化も伴い、内容を再検討した。 今後の提言内容においては、知事が公約として掲げた「生物多様性の保全」の	6月 （現地理事 会）、 9月10月 定例会議	6

	自団体		アクションプランとなる「シマフクロウの森の再生」「川の再生」「それを担う人材の育成」について、再度公言していただく案で決定した。		
		生息環境の保全 河川改修された川の再生	1970 年代に酪農振興のため河川改修された川を踏査した結果、一部が土砂により川幅が極端に狭まり増水時は氾濫が繰り返され、かつ途中で川が分断されていることが判明した。この現状は長期的に漁業へ河川からの栄養塩供給の面で影響を与え事が考えられたため漁協と現状を共有し、行政に河川再生を要望し、関係者で現地踏査、協議を行い、解決への道筋が整理された。	12/21,24,30	9
シマフクロウの保護・保全活動及び支援する事業	自団体 北海道 浜中町 散布漁協 浜中漁協 散布小学校	生息環境の保全・再生 協定事業(道有林) 「浜中町 森里海をつなぐ シマフクロウ地球の森づくり」 	浜中町の太平洋側水系の水源地に位置する道有林では、近年、広葉樹の天然更新が進まず、川への土砂が増加し、水生生物が激減し、鹿食害により河畔の広葉樹幼樹の育成が阻まれトドマツが侵入してくる傾向が見られ、さらにトドマツ人工林は 50 年周期伐期を迎えており、益々河川への土砂流入や生物多様性の低下が予測されている。 この現状を受け、2021 年に浜中町、北海道、町内漁協、当法人で森づくり協定を締結し、水源域の混交林化を進める植栽の試験を開始した結果、今年度、苗木の活着や成長が顕著に確認された。そこで、森と海のつながりを良くする根本的な環境再生として、鹿柵を用いて長期保護する広葉樹母樹センターを水源域に創出していく方針を森づくり講師と決定した。 天然更新が難しくなっている地域の水源地再生は、人もシマフクロウも必要としている健全な水の再生(川の再生)でもあり、流域に関係の深い漁協・学校・町との協働作業を今年度も推進した。 【植樹地の巡回】 毎月1回植樹地を巡回し、防鹿柵の効果や苗木の成長、食害の有無などを目視と設置したセンサーカメラで記録した結果、エゾシカ、ヒグマ、エゾタヌキ、エゾテン、ヤマゲラが記録された。ヒグマにおいては別個体が 6 頭記録された。10	1月～12月	2

		 	月には、1 か所の防鹿ネットがたわみエゾシカ 1 頭が侵入したことをセンサーカメラで確認したが苗木の被害には至らず、ネットは直ちに補修した。 【植樹後の苗木測定・記録】 2021 年に水源域に植樹した在来種苗木 120 ポットの生長を測定・記録する作業を 5 月に 1 回、植樹に参画した学校生徒 30 名と 10 月に 1 回行った。測定結果は、98.3%の活着が確認され、ハルニレ、ヌルデ等 1m以上成長した苗木も記録された。 【事業計画の変更】 森づくり講師と苗木の成長が良好な様子を確認した結果、次年度から「試験」を「実践」に切替え再生地拡大をしていく方針が決定した。 【植樹候補地の選定】 試験を実践に変更するにあたり、植樹予定地の選定作業を講師アドバイスに基づき実施し森林整備計画書を変更した。	5/9 10/16 10/26 11/15 9 月—11 月	38 3 2
		上流域の混交林化 (私有地) 	・浜中町の太平洋側の水系の上流域で、現在カラマツ人工林施業が展開されている私有地の河畔沿いを、本来の混交林に戻し、水源林としての機能回復を図り、かつてのように魚類が成育しやすい河川の再生を目指し、地主と合意形成を進め快諾いただいた。	5 月 9 月 10 月	6
//	自団体 グレートノース 浜中中学校	生息環境の保全・再生 シマフクロウの道 再生プロジェクト	近隣自治体へ流入する水系の上流域における酪農地帯の水源林再生のため、2021 年に在来種苗木 29 種 120 ポットを植えた中学校と、苗木の観察や生長を測定・記録した。中でもハルニレは 1 年間で約 90 cmの顕著な成長ぶりであった。 実施にあたり、5 月中旬に苗木の状況調査、6 月中旬に植樹地草刈りを実施し	5 月中旬— 6 月下旬	25 3

		WAKKA(私有地) 次年度植樹地の準備 	た。実施校は今後も全学年で取組める総合学習の継続に意欲を示した。 次年度の酪農地帯の水源林再生地として、近隣自治体へ流入する別水系の上流域にて、趣旨に賛同いただいた酪農家より土地約 0.1ha を提供いただき、7 月～9 月、地拵えや防草シート敷設、鹿柵設置作業の一部を実施し次年度植樹に備えた。 広報の取組として、ワッカ PR 動画を助成金で制作し 2 月末 youtube に公開、チラシ・ポスターを制作し町内学校に配布した。地域に活動を広報し協力者を呼びかけた。	8—9 月 2 月 3 月	4 5
普及・啓発 事業					
シマフクロウをシンボルとした環境教育事業	自団体 浜中中学校	環境教育事業 	全学年で毎年取組む浜中中学校の総合学習として、今年度は前年植えた苗木の測定・記録のほか、水源地再生取組の意義を深めるため、植樹地区の住民が今でも飲料水として使用している湧水地を訪れ、管理を続けている酪農家の方からその歴史や管理にまつわる話をいただいた。実際に湧水地を歩き、湧水と水源林のメカニズムについて森づくり講師からの解説を受け、湧水環境の良さを体感した。また、大量の水が必要な酪農業と水源林の関係性について学び、森づくりの意義を深める時間となった。	6/24	26
	茶内中学校		隔年で受託している茶内中学校のふるさと学習では、「浜中町の自然を知ろうーシマフクロウから教わる 川と水源地の関係について」を企画し、室内外で実施した。 スライド「人もシマフクロウも喜ぶ、健康な森、川、里、海の繋がり」学習では、町中を流れる川と水源林の繋がりメカニズムを説明し、川を「食・住環境」として利用しているシマフクロウを紹介した。 野外学習では、学校付近を流れる河川の水源林を訪れ、今では希少となった樹齢 300 年以上の落葉広葉樹が茂る森林を体験し、シマフクロウと川と水源	8/25	38

シマフクロウをシンボルとした環境教育事業	散布小学校	 	林の関係、川と一次産業と、私たちの暮らしの関係について、理解を深めた。町中の川の氾濫問題についても新たな側面から考える機会を提供した。 2021 年に植樹した小学校全学年に、スライド学習、苗の生長の計測・記録を実施し、水源林の自然に親しむ体験では先生方主導で実施をいただいた。スライド学習「シマフクロウから教わる豊かな海と森の関係」は、生きものネットワークについて、低学年でもわかりやすい表現で紹介し、昨年から始まった上流域の森づくりの意味や、森とシマフクロウと川と海のつながりについて、全学年が学んだ。 12月の学習発表会では、この森づくりの意義を小学3・4年生が地域の大人に的確に発表していることを確認し、学習成果が実感出来た。 シマフクロウの視点から豊かな海と森の密接な繋がりを学び、身近な漁業を支える森づくりへの理解を一層深めた。	10/26	36
シマフクロウの保護・保全を支援する人材育成事業	(一社)サステナブルシーフード協会 自団体	人材育成事業 	(一社)サステナブルシーフード協会より講師依頼を受け、オンライン授業「おさかな小学校」の10月授業として「サケがつなぐ森と海」をテーマに、シマフクロウの視点を交え、代表理事が各地の小学生参加者に話題提供を行った。	10/15	23人
PR 事業	自団体 (一社)全国日本学士会	ホームページ、印刷物による広報	支援者向けに会報を4月、8月、12月に発行し、季節のシマフクロウの暮らしぶりや、調査・研究、環境保全、教育活動、関連ニュース等を紹介し、より一層当活動への理解や関心を深めていただけるよう努めた。 Facebook を通じ、広く様々な立場の人々に向けて、当活動の意義やシマフクロウが何に困っていてどんな協力が求められているのか等を随時伝えた。 (一社)全国日本学士会発行のアカデミア 2022 年 7 月号 NO187 にて、前年に実施された第 1 回森里海を結ぶフォーラムのハイライトとなった「絶滅危	4月、8月、12月 7月	400 不特定多数 不特定多数

	・合同会社 NORTH CREATE ・ソフトバン ク株式会社 (順不同・継承略)		2020 年から開始した合同会社ピッコロ様にて展開している、シマフクロウキャラクター雑貨による売り上げの一部を毎月ご寄付を頂いた。 その他 2018 年から開始の古本募金ハピ本様、2019 年から開始のソフトバンク株式会社つながる募金様から、利用者数に応じたご寄付を随時頂いた。	通年	不特定 多数
	自団体 森里海を結 ぶフォーラム	関連イベントの支援	「第 2 回森里海を結ぶフォーラム in 長良川 上流の郡上市から河口の鳥羽市まで」が 10 月、三重県鳥羽市にて開催され、広報等の支援に携わった。	9-10月	不特定 多数
	自団体	視察対応 	森づくりの助成をいただいたコープ未来の森基金(札幌市)の関係者 17 名が、シマフクロウ・エイドの森づくり現場を視察研修に訪れ、シマフクロウの視点から、分断された森や河川改修された川、一次産業の開拓の歴史等を伝え、多様な人々と協働で支える持続可能な森林管理などについて、活発な意見交換を行った。	7月	23

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

〒088-1366 北海道厚岸郡浜中町茶内橋北西 85 番地 TEL FAX : 0153-65-2183 Email : office@fishowlaid.jp Web : <https://fishowlaid.jp/>